



領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策		
					A	B	C	D			
IV 専門科 商業科 会計情報科    服飾科	1 専門教育の改善・充実	・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	1年生は来年度以降のコース選択について、商業科担任との面談を重ね、きちんと学習内容を理解したうえで選択することができた。自分が学習を深めたい分野について、今年度以上に意欲的に学習を深めることができたと考える。 また、新学習指導要領実施と並行して新たな教育課程を編成した学年の最終年となる、年度末に向けてこの3年間の総括をしたい。多様な生徒の能力に応じた授業の展開や講座編成、補習の実施や外部機関の講座利用など継続的な課題である。	○				何のために商業科目を学習するのかをきちんと説き、普段の学習はもとより検定やコンテストなどにも積極的に挑戦させ、次のステップへとサイクルを回していけるような習慣づけを行う。 卒業後の自分の姿を描いていない生徒が多い。ビジネス基礎やビジネスマインドを中心に、将来社会に出た時をイメージさせて自分事ととらえられる意識付けを行う。		
				2 資格取得の促進	・ 各種検定を利用した学習意欲の向上 ・ 進路活動を意識させた検定取得の促進	各検定を受験する生徒数は例年と同水準であるが、上位級の合格者は減少傾向にある。授業内容の関連付けを強化するとともに補習や外部講座等を活用して意欲を高めていく。ただし、検定のみにならない指導も同時に継続していく。 進路活動に間に合うように検定取得を促しているが、下級生時の上位級への挑戦はまだまだほしいと感じる。3年間を通した検定取得計画をきちんと考えさせたい。		○			授業で一斉受験している検定や受験級を見直す。また、生徒が主体的に受験を希望するような雰囲気づくりや意欲の育成を行う。高大連携協定を結んでいる学校の開講講座の活用を促進し、資格取得のみならず更に発展した学習をするための進路活動へ結びつける。
							3 地域との連携	・ 各種取り組みの継続と発展 ・ 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	諏訪タウンにおいて担当部署とコースを関連付けて実施したが、あまり良い効果は得られなかった。しかし、昨年度の反省を活かして、新しい部署の立ち上げや再編統合などを行い効率よく運営することができた。営業課では地域の店舗から仕入販売を行い、フード課では地元食材を使ったメニュー開発や各店舗と連携した販売、キッズ課では小学生の社会体験の補助など様々なところで地域の方々と繋がりが学習を展開することができた。 生徒により学習にむかう姿勢や技能に差があり、専門科目の学習内容の検討が必要		○
	1 専門教育の改善・充実	・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	学習成果発表会を3年間の学びの集大成と位置づけ、1年次からの専門科の学習はそこに行きつくものとして、全ての学びが重要であるという理念のもとに指導することができた。 生徒により学習にむかう姿勢や技能に差があり、専門科目の学習内容の検討が必要		○						指導理念は継続していきたい。 ビジネスコースの専門科目の学習内容の検討を進める。授業作品や検定実施科目、教育課程の検討を進めていきたい。
				2 資格取得の促進	・ 各種検定を利用した学習意欲の向上 ・ 進路活動を意識させた検定取得の促進	家庭科技術検定1級合格者17名、うち2冠12名。これから受験する生徒もいるため、人数は変更になる。 色彩検定 3級1名合格。		○			ビジネスコースの検定実施について、実施科目、時期など、教育課程とともに検討していきたい。
	3 地域との連携	・ 各種取り組みの継続と発展 ・ 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	諏訪大社の縁起物のデザインその他、YumiKatsuraトーク&ファッションショー出演、小学校の学習サポーターや地域との連携行事に積極的に参加した。 岡谷壺系博物館特別展を全学年で見学するなど、地域の伝統産業を学ぶ機会を持った。					○			1学年で岡谷壺系博物館を見学することは地域を知る上でとても有意義だと思う。今後も継続していきたい。
				I 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集・情報把握と対応 ・ 業務の整理・改善 ・ PTA活動の精選 ・ 校務支援システムによる情報の共有(月層、施設予約、生徒の出欠席、成績)	必要に応じて、情報把握・連絡調整を行った。		○		
	職員会議の議事録の様式の変更や議題の整理に努めた。		○						今後も職員からの要望を元に取り組んでいきたい。		
	有効に活用できているが、生徒の出欠席の入力が遅くなる事がある。		○						職員全体に呼び掛けている。		
2 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行 ・ HPの充実・更新 ・ 保護者等への情報発信(マチコミ等) ・ 中学生体験入学を含む学校開放事業の周知と充実	予定通りに発行し、各機会に配布して、本校の様子を広めることが出来た。			○			今後も継続したい。			
		HPについては広く、保護者等についてはマチコミメールで書面より早く情報が伝わっている。			○			今後も書面とHP・メールを使い分けていきたい。			
		学校説明会を保護者ではなく中学生を対象とし多くの中学生が参加した。授業見学後に帰る中学生も居た。			○			日程の組み換えをし、中学校との連絡を密にしたりしたい。			
II 地域連携 ※専門科以外	1 近隣へのボランティア	・ 環境美化の推進: 整美委員会を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係) ・ 交通・生活・行動困難者への配慮と協力 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)(生徒指導)	年3回の校舎外清掃にて、音段掃除ができない所の雑巾がけや、窓ふき、ロータリーや校舎外の車取り、ゴミ拾い、泥さらいを行った。		○			校舎外清掃以外の機会にも、整美委員より環境美化活動をおこなってほしい。			
			防犯登録は年度初めに、施設調査と改善の呼びかけは交通安全週間に連動して例年並みに実施した。		○			警察やボランティア関係と連動しての活動の必要性を再度確認する。			
	2 高校大学等との連携	・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験への参加よびかけ	夏季休業中の「松大チャレンジ」には多くの生徒が参加した。		○			大学短大希望者には積極的声かけをする。			
			多くの企業、諸団体の協力のおかげで、数多くの進路行事を実施することができた。生徒の気づきや、達成感につながっている。		○			一過性のイベントにならないよう、学年とも連携して事前事後学習を充実させる。			
	3 企業との連携	・ インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、(進路) ・ 企業勉強会、企業説明会の推進(進路) ・ 採用担当者の講演会(進路) ・ 内定生徒と採用担当者との面談(進路)	本校の活動を見ていただき、様々な視点からの意見を共有し、本校の実践に活かしていくようにしている。		○			評議員会の日時について、特に第1回は早めに知らせたい。電子メールを活用する方法もある。			
本校の活動を見ていただき、様々な視点からの意見を共有し、本校の実践に活かしていくようにしている。				○			引き続き実施していきたい。				
4 学校評議員会	・ 本校の課題の共有・整理と各分掌への報告	本校の活動を見ていただき、様々な視点からの意見を共有し、本校の実践に活かしていくようにしている。		○			評議員会の日時について、特に第1回は早めに知らせたい。電子メールを活用する方法もある。				
5 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等(教務)	本校在学生の様子や入学者選抜などの情報を伝え、中学校側の疑問点にも答えている。		○			引き続き実施していきたい。				

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反省委員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。